

万協フローア YPE-SS8タイプ 施工要領書 住宅性能表示制度対応（ $\Delta L=0$ 、床仕上げ構造区分3）

1.はじめに

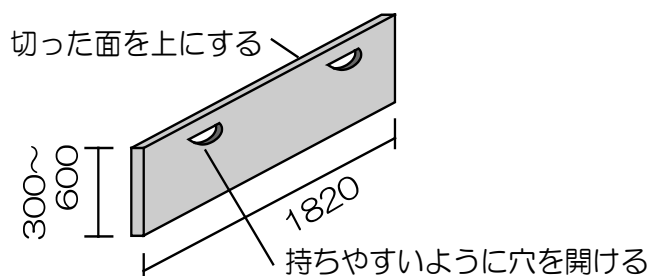
このたびは弊社二重床をご採用いただきありがとうございます。
製品の特性を十分に生かし、安全で美しい仕上がり施工して頂くために
本書をよく読み、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

2.施工工具一覧

- ・電動ノコギリ（丸ノコ）
- ・ドライバー（＋）
- ・インパクトドライバー（ビス留めの場合）
- ・釘打機（コンプレッサー）（釘留めの場合）
- ・水平器
- ・水系
- ・レーザー水平器
- ・スケール
- ・カッター
- ・定規（下図参照）※1
- ・すきまゲージ（下図参照）※2
- ・ほうき
- ・ちりとり

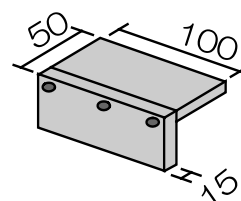
※1 定規

床パネルを半分に切って作ります。



※2 すきまゲージ

厚さ 15mm の合板又は木材で 4 個以上作ります。



3.製品仕様

①パーティクルボード（以下、パーチとする）

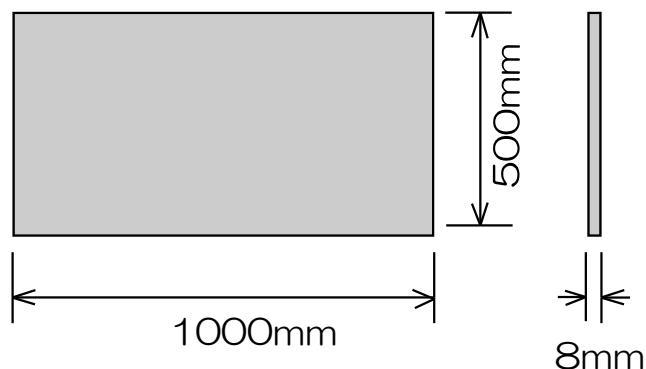
（厚さ）20mm×（幅）600mm×（長さ）1820mm

注意 パーティクルボードは、JIS A 5908（パーティクルボード）18MR1（M）
又は 18MR2（P）F☆☆☆☆をご使用ください。
パネルはぬらさないでください。
直射日光の当たる場所に長時間放置しないでください。

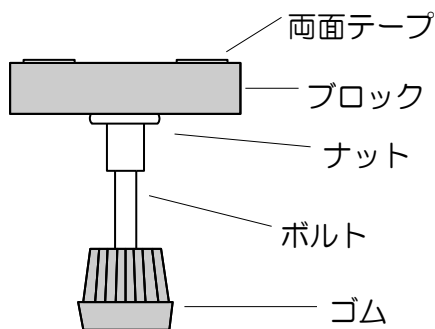
②制振シート

（厚さ）8mm×（幅）500mm×（長さ）1000mm

（比重）2.3

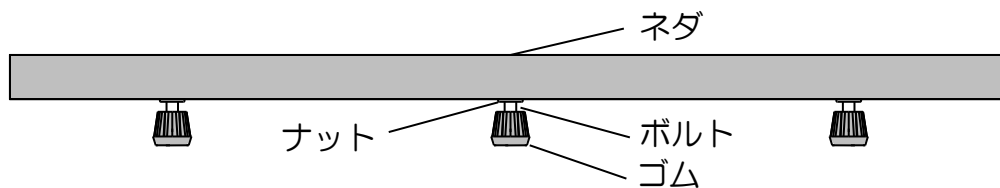


③支持脚及び防振システムネダの構成

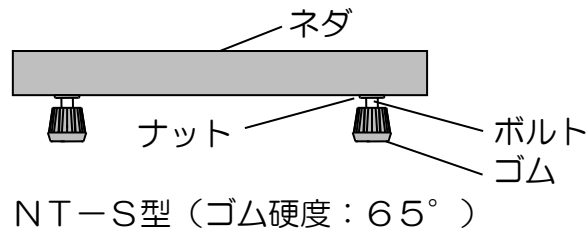


YPE型（適応床高：102～290mm）

※適応床高は、スラブからパーチ天端までの距離です。



NT3型（ゴム硬度：65°）



④接着剤

中ボタンを取り、ノズルの先端をカッターで切って使用します。

冬季など低温度・低湿度のときは硬化しにくい場合があります。

注意 使用の際は換気をよくしてください。

誤って目に入れたり、飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。

注意 標準入数の半数以上のご注文の場合、接着剤が同梱されます。

⑤ビスおよび釘（別売 市販品）

パッチと支持脚の固定には、ビスまたは釘を使用します。

[パッチ固定用]

コーススレッド半ねじフレキ付 (φ)3.8×38mm以上	スクリューネイル (φ)2.1×38mm以上
---------------------------------	---------------------------

[合板固定用]

捨張(mm) \ 厚	コーススレッド (mm)	スクリューネイル (mm)
厚 9※	(φ)3.8×32 以上	(φ)2.1×32 以上
厚 12	(φ)3.8×32 以上	(φ)2.1×32 以上

※9mm 合板は、床暖房仕様時のみ

⑥合板（必要な場合のみ）

（厚さ）12mm×（幅）910mm×（長さ）1820mm

必要な場合

- ・ムクフローリング仕上げ
- ・直貼フローリング仕上げ
- ・カーペット仕上げ
- ・ビニル系床仕上げ
- ・床暖房仕様（※厚さ9mm又は12mm合板）
- ・（厚）12mm×（長さ）1800mm×（幅）300mm未満のフローリング（突板貼り合板）仕上げ
- ・たたみ仕上げ

注意 床仕上げ材の変更で用いることができる材料は、一定の性能基準を満たす必要があるため、事前にご相談下さい。

4. 施工手順

4.1 施工を始める前に

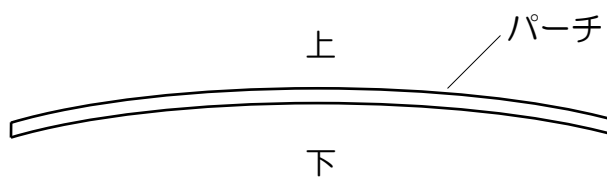
- スラブ面にゴミがないように清掃します。
- 床高に合った支持脚であるか確認します。
- パーチの枚数を確認します。
- 床下配管の位置を確認します。
- フローリングの方向を確認します。(パーチを張る方向はフローリングと直交にする。)

注意 スラブがぬれている場所、水たまりがある場所は、乾かしてから施工してください。

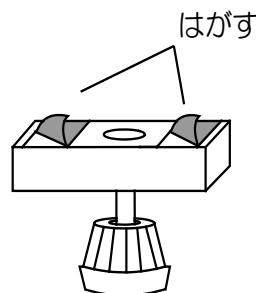
4.2 パネルの敷設

① パネルの反りを見ます。

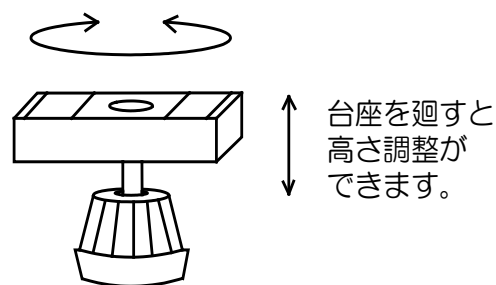
パネルに反りがある場合、ふくらんでいる面が上になる様に施工します。



② 支持脚のシールをはがします。



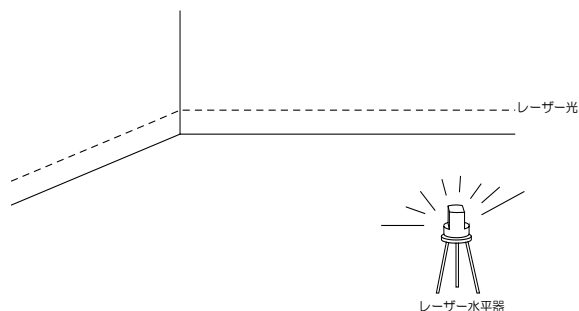
③ 台座を廻し支持脚を適当な高さに調整します。



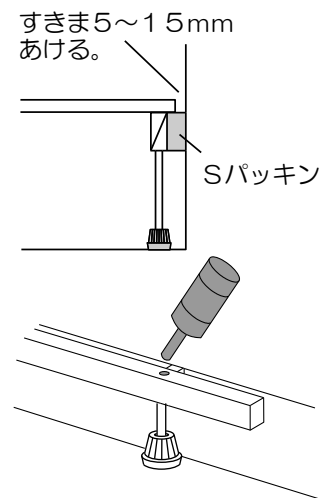
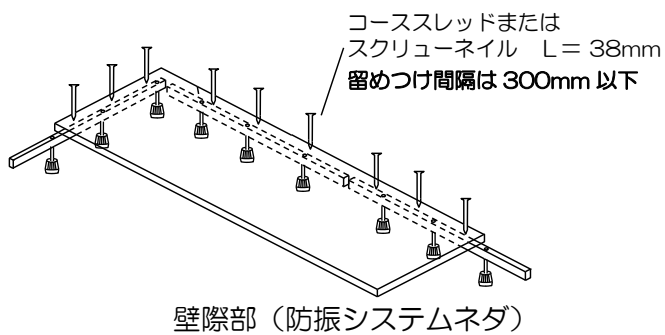
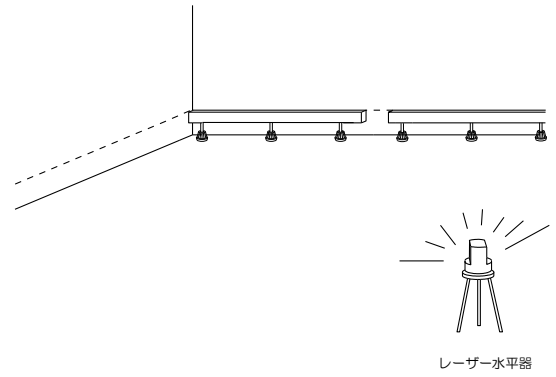
④ 壁際の施工

防振システムネダを施工します。
先にネダを壁につける施工方法です。

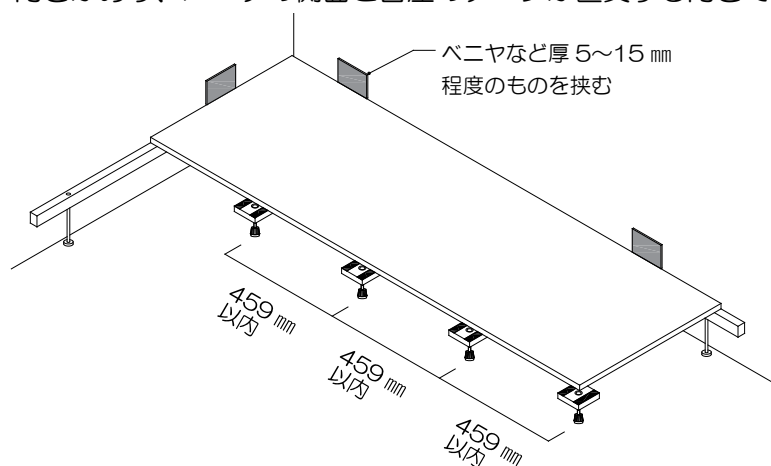
レーザー水平器を設置し、壁にレーザーをあてます。
レーザーは、防振システムネダを設置する高さに合わせます。根太間の隙間幅は 150mm 以下とし接触しないようにします。



防振システムネダをレーザーに合うように高さを調整し、配置します。
接着剤を注入します。

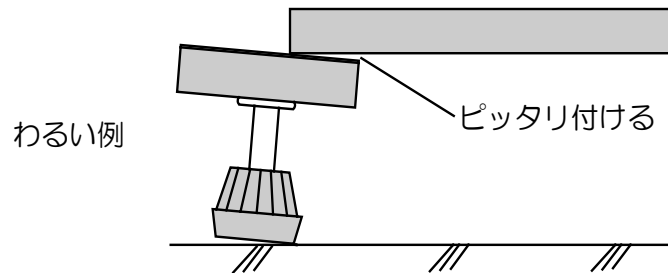


- ⑤支持脚は約**455mm**ピッチ（459mm 以内）でパーチに貼り付けます。
台座には、向きがあり、パーチの側面と台座のテープが直交する向きで貼り付けます。



よい例		わるい例	

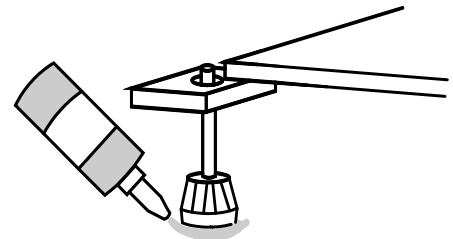
注意 支持脚はパーチにしっかり貼り付けてください。
浮いていると床鳴りの原因になります。



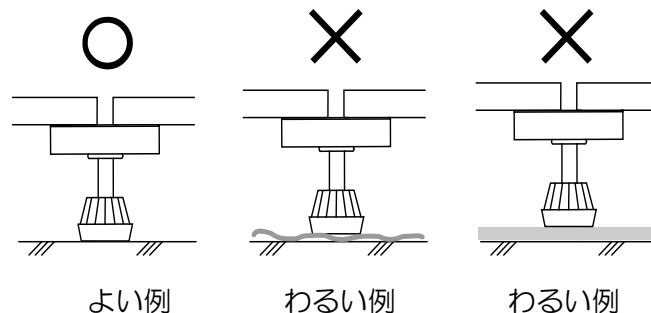
注意 ボルトが台座から出る場合、防振ゴムの底部に接着剤を
付けながら、施工してください。
接着剤を付けた箇所は、その日のうちに

- ・レベル調整
- ・ボルト頭部への接着剤注入

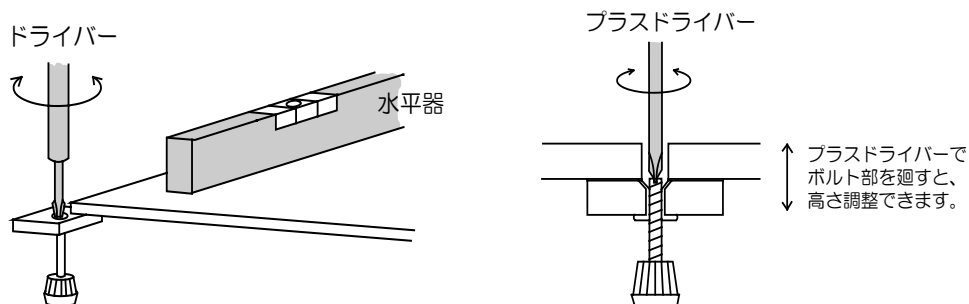
を済ませてください。



注意 支持脚の下には、物をはさまないでください。
床鳴りの原因になることがあります。
支持脚は、直接スラブに接するようにします。



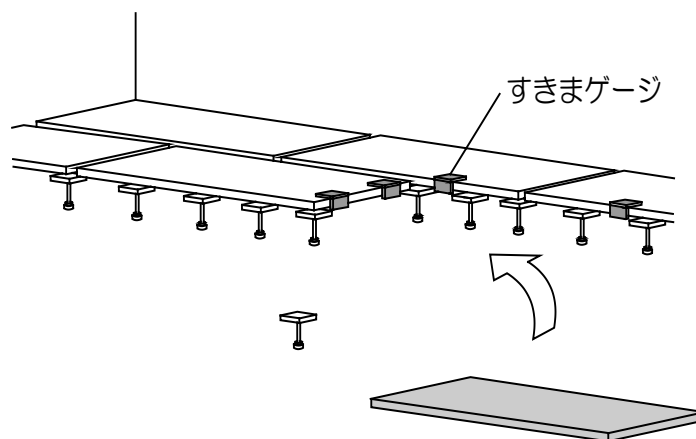
⑥パーチを1枚張るごとに、水平器またはレーザー水平器でパーチを水平にします。



注意 製造工程上、ボルト頭部の十字溝に一部変形がみられるものがありますが、不良品ではありません。

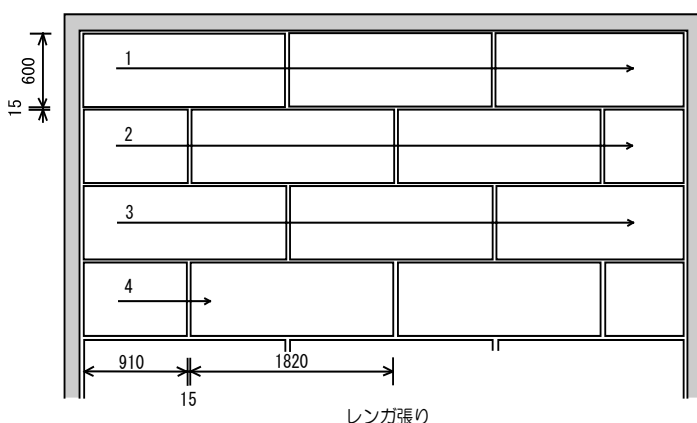
注意 インパクトドライバーや電動工具等でレベル調整を行うと、過度な負荷がかかり、ネジ山がつぶれる恐れがありますのでご注意ください。

⑦パーチ同士のすきま（以下「目地」という）は約15mmあけます。
このとき、すきまゲージを使用すると、早く正確に施工できます。



パーチを張る順番は、下図（矢印）の通りです。張り方はレンガ張りです。

注意 張り仕舞いで、パーチの幅が200mm以下になる場合、前の列のパーチの幅を細くするなどして、パーチの幅が200mmより細くならないようにしてください。

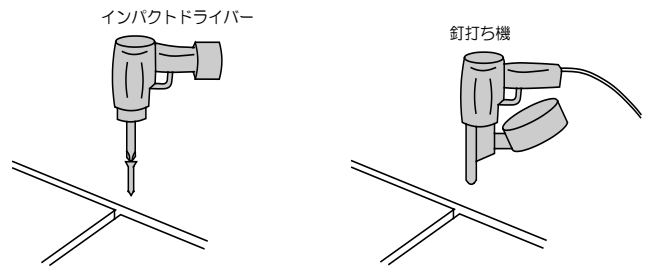


注意 パーチの表裏面に、キズ（ノコギリの切れ目など）のあるものは、使用しないでください。

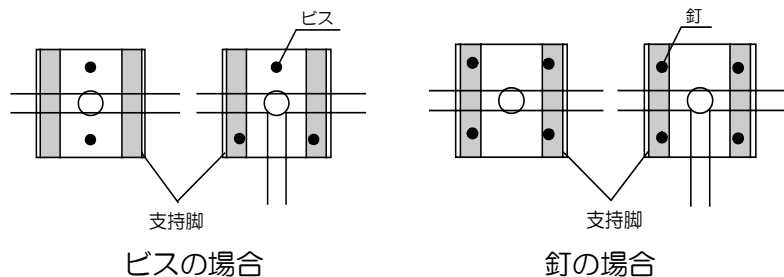
4.3 パネル固定

パーチ上からビスまたは釘を打ち、支持脚とパーチを固定します。

コーススレッドまたはスクリーネイルは（長さ）**38mm**を使用します。



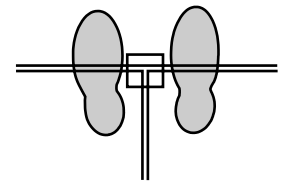
支持脚の釘打ち位置は下図の箇所です。



支持脚に均等に体重をかけて釘打ちします。

ビス留めの場合、支持脚をビスで留めながら、施工します。

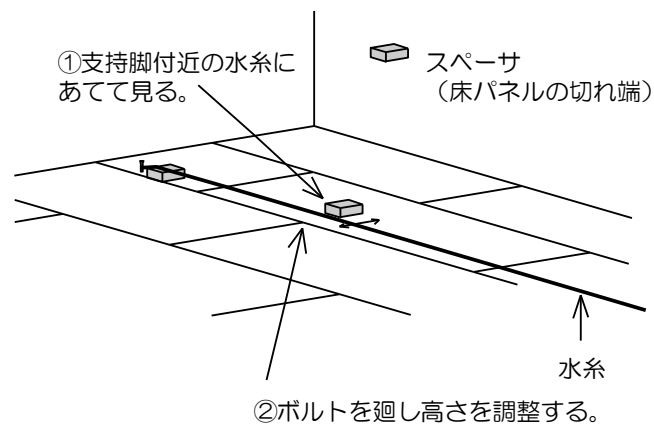
釘留めの場合、パーチをすべて敷いてから釘を打ちます。



4.4 レベル再調整

水系・定規の場合

3列おきに水系を張り、パーチ長辺方向のレベルを調整します。



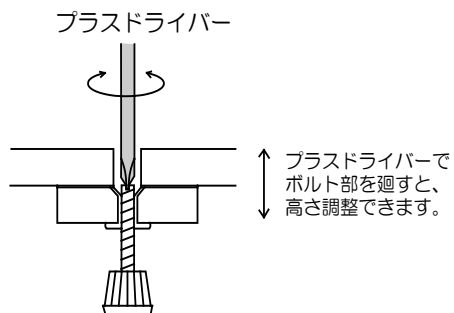
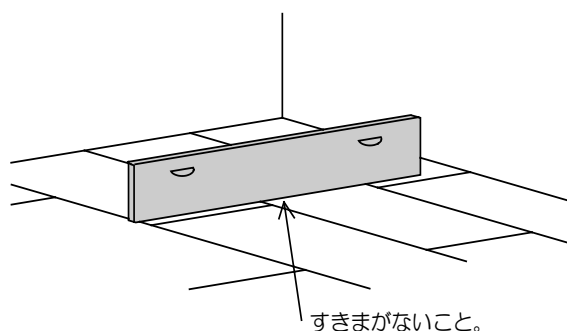
水系はパーチの切れ端（以下「スペース」という）を挟んで強く張ります。

このとき、スペースは同じ高さになるように使用します。

別のスペースを水系とパーチの間に置き、スペースと水系が軽く触れる高さに支持脚を調整します。

パーチ短辺方向のレベルを調整は、定規を下図のように置いて、すきまが出来ないように調整

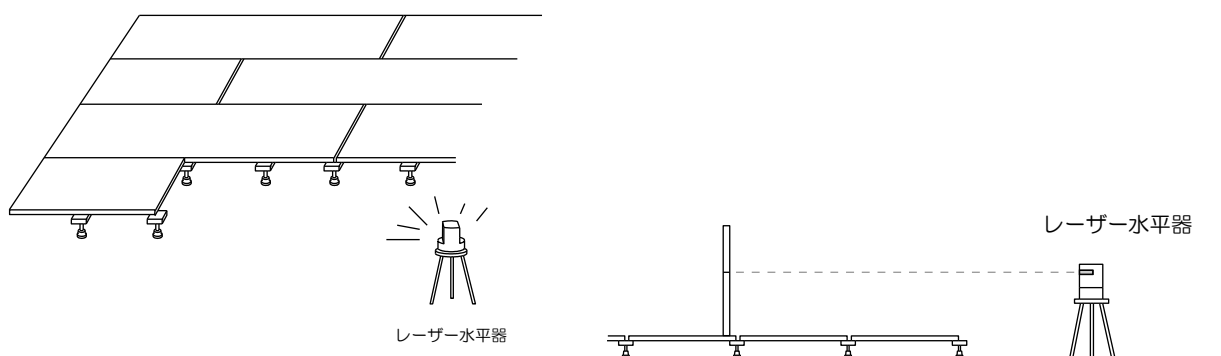
します。



レーザー水平器の場合

レーザー水平器を設置します。

かね尺等を支持脚上に立て、ドライバーでボルトを廻し、同じ位置にレーザーがあたるように高さを調整します。

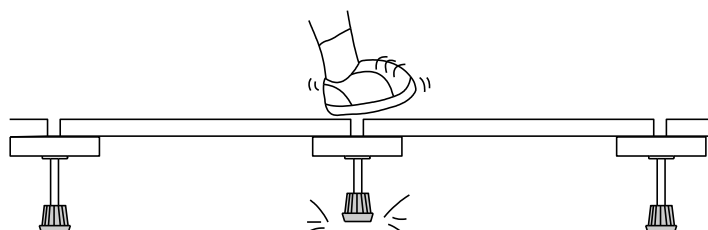


4.5 床全体のレベル点検

床のレベル調整がすべて終わったら床全体を歩いて、支持脚の「浮き」が無いか確認します。

浮いている箇所は、支持脚がスラブに付くまで、ボルトを廻します。

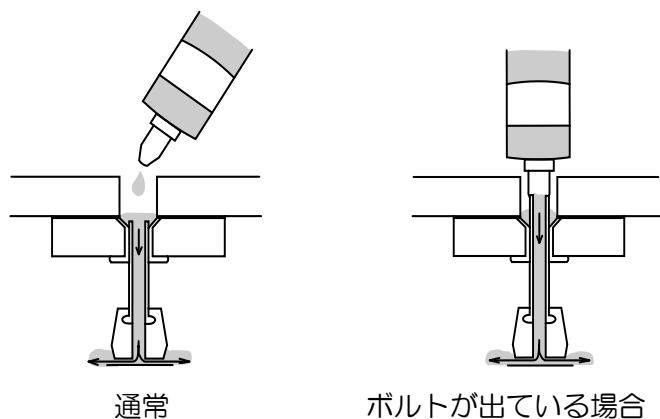
このとき、パーチの水平を保つようにしてください。



支持脚の上を歩いて、他よりやわらかく感じたら、浮いている可能性があります。

4.6 接着剤の注入

すべての支持脚ボルト部に接着剤を注入します。



ボルトが出ている場合は、ボルトの頭部にノズルを挿して注入します。

接着剤は台座とボルトおよびスラブと支持脚を接着します。

接着剤が硬化するには、1～2日くらいかかります。この間、床上に重量物を置いたり、歩いたりしないでください。

注入量の目安は、1本あたり 4ml 以上。

4.7 制振シート敷設

制振シートは、すきまなく並べ、目地はパーチの目地と合わないよう 100mm 以上離します。

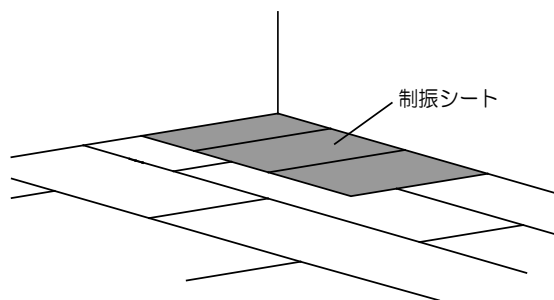
制振シートを施工する際、フローリング留付け用釘等が誤ってパーチの目地に打たれないように、目地位置をマーキングします。

最小寸法は短辺・長辺共 200mm 以上とします。

壁際は5～15mm すきまをあけます。

フローリングの貼り始め、貼り仕舞い位置の制振シートを除き、置くだけの施工とします。

フローリングの貼り始め、貼り仕舞い位置の制振シートは、必要に応じてウレタン系接着剤を用いて固定します。



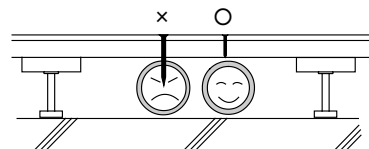
4.8 合板（必要な場合のみ）

合板はパーチと直交するように貼ります。

合板の継ぎ目はパーチの目地部から、100mm以上ズラします。

壁際は5～15mmすきまをあけます。

釘またはビスを使用し、約200mmピッチで留めます。



注意 床下配管などをキズつける恐れがありますので、パーチをつき抜けない長さの釘をご使用ください。

5. その他

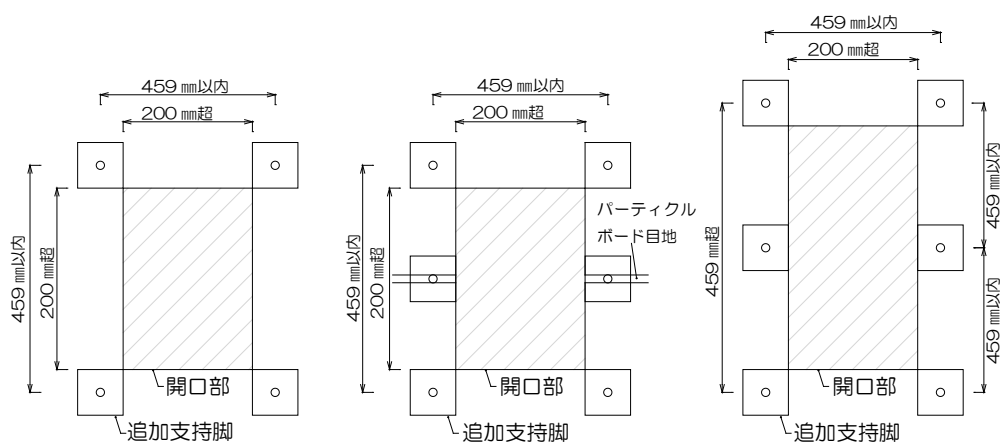
5.1 床に穴をあける場合の処置

床下地に穴をあけると、開口部の大きさによってその箇所の強度が低下することがあります。開口が200mmを超える場合は、以下の条件をもとに下図に示す追加支持脚を入れます。

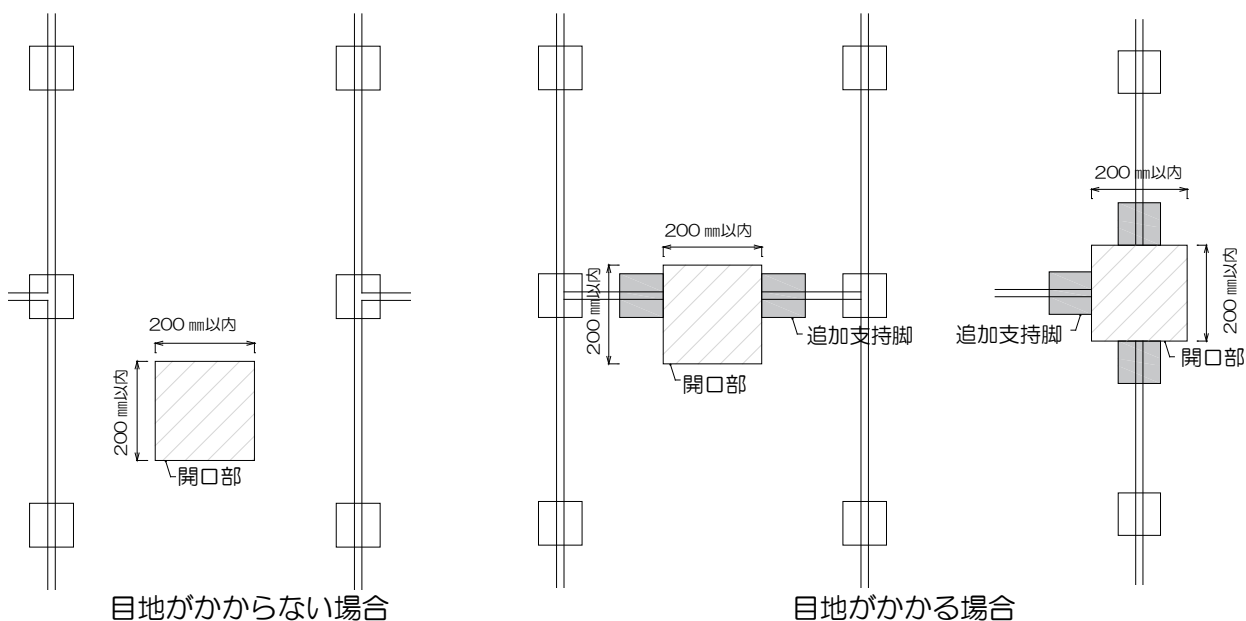
- ・ 開口部の四隅
- ・ パーチの目地部

支持脚の間隔が459mmを超える場合には、中間に支持脚を追加します。

注意 床に開口部を設ける際、丸鋸の切込みが残らないようにしてください。



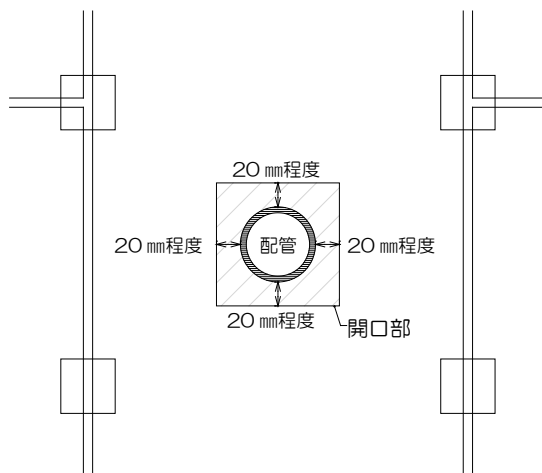
開口部に目地がかかる場合には、開口が200mm以内であっても支持脚を追加してください。



5.2 床下配管の立上り部

配管周りは、配管とパーチが触れないよう20mm程度離します。

注意 パーチが配管に触れると、床鳴りの原因になります。



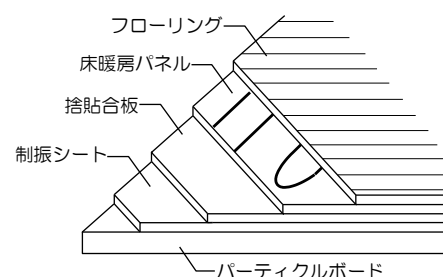
5.3 床暖房について

床暖房パネルと組み合わせることにより、床暖房仕様の床ができます。

床暖房を使用する場合は、合板（厚9mm 又は12mm）を使用します。

仕上材は床暖房対応のものを使用し、釘（又はビス）と接着剤併用で施工します。

床暖房の施工方法については、床暖房メーカーにお問い合わせください。



5.4 フローリング施工

制振シートは固定してありません。そのままフローリングを施工すると、貼り始めおよび貼り仕舞いが浮いた状態になる場合があります。制振シートに接着剤を塗り、床パネルに貼付けてからフローリングの施工をはじめて下さい。

接着剤は、貼り始めの列および貼り仕舞いの列に適量（はがれない程度）ぬります。

接着剤はフローリング用のものをご使用下さい。

接着剤は線状に300mm以下の間隔で塗布してください。

フローリングの長辺方向とパーチの長辺方向とが、直交するようにしてください。

5.5 幅木の施工

①ヒレ付幅木の場合

ヒレ付幅木の下端は、床仕上げ材表面との距離0～1mmで施工してください。

②ヒレなし幅木の場合

ヒレなし幅木の下端は、床仕上げ材表面との距離を2mmの隙間で施工してください。

5.6 床仕上げ材の変更について

床仕上げ材の変更で用いることができる材料は、一定の性能基準を満たす必要があるため、事前にご相談下さい。

5.7 その他の注意事項

①水を使用する作業

- ・二重床の上で、水を使用する作業を行う場合は、必ずビニールシート養生を行ってください。

②資材の仮置き

- ・二重床の上に、資材を仮置きする場合は、1ヶ所にまとめず、分散させ、静かに置いてください。（目安としては200kg/m²まで）
- ・まとめて仮置きした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、仕上げ材の施工に支障が出る恐れがあります。

③その他

- ・二重床の上は、搬入経路等で使用しないでください。
- ・二重床施工後、床上に強い衝撃を加えないでください。建築資材の落下などにより、パーチが割れる場合があります。
- ・風雨にさらされる場所への施工は、避けてください。
- ・施工要領書に記載のない施工をおこなう場合は、事前にご相談下さい。
- ・事業主様によっては、本施工要領書とは別に規定を設けている場合がありますので、ご確認の上、施工をおこなうようご注意ください。
- ・スラブから放出される水分が多い場合や漏水等により二重床下の空間で多湿状態（※1）が続くと、床材の反り、突き上げなどの原因になりますのでご注意ください。
- ・自然現象・周辺環境等（※2）の不可抗力に起因する結露、腐食、反り、割れ又はその他の不具合による商品の交換等には対応いたしかねます。

（※1）湿度 65%以上になるとカビが生えやすい環境となり、湿度 90%を超えると数日でカビが発生する可能性があります。

（※2）火災・地震・水害・落雷などの天災地変や公害・塩害・ガス害や異常な高温・低温・多湿・過乾燥などの周辺環境

「仕様は予告なく変更することがあります。」